



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月11日

上場取引所 東 名

上場会社名 大東紡織株式会社

コード番号 3202 URL <http://www.daitobo.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 国広 伸夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部管理部長

(氏名) 加久間 雄二

TEL 03-3665-7816

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	3,691	△11.5	106	△24.1	△71	—	△85	—
23年3月期第2四半期	4,169	△14.7	140	—	△49	—	△71	—

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 △51百万円 (—%) 23年3月期第2四半期 △119百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	△2.86	—
23年3月期第2四半期	△2.39	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	22,609	—	4,161	—	16.5	—
23年3月期	22,590	—	4,212	—	16.8	—

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 3,739百万円 23年3月期 3,795百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,440	1.3	510	56.8	140	—	110	—	3.67

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規—社(社名)、除外—社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	30,000,000 株	23年3月期	30,000,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	63,532 株	23年3月期	62,809 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	29,936,941 株	23年3月期2Q	29,938,846 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災後のサプライチェーンの立て直しが進み、生産活動の回復に伴って景気は持ち直しつつあります。しかし、欧州の債務危機を起因とする海外経済の減速やそれを受けた急速な円高の進行に伴う企業収益の悪化が懸念されることから景気の先行きは不透明な状況が続いています。

繊維・アパレル業界におきましては、震災の影響が概ね収束し、改善の兆しが見え始めていましたが、夏場の天候不順などの影響もあって後半は伸び悩みました。

ショッピングセンター業界におきましては、震災以降の買い控えの反動から一時持ち直しましたが、夏場以降は前年好調であった家電量販店の反動減等を主因に前年比マイナス幅が徐々に拡大しました。

このような事業環境の中で、当社グループは「中期経営計画2010～KAIKAKU～」に基づき、中核事業である「提案型OEM事業」における新規取引先開拓を推進する一方で、引き続き低採算事業の絞り込みを図るとともに、もう一方の中核事業である「商業施設事業」にも経営資源を投入し震災の影響を最小限に止め業績の維持向上に注力しました。また、無駄を省き一層のローコスト経営を徹底すべく、製造原価の低減や販売管理費の削減などの「コスト構造の改革」にも継続して取り組みました。

なお、当社が出資参加し中期経営計画にも掲げていた中華人民共和国浙江省寧波市におけるアウトレット事業施設「杉井アウトレット広場・寧波」が平成23年9月23日にグランドオープンしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高36億91百万円（前年同期比11.5%減）と減少したものの、販売管理費削減効果により営業利益1億6百万円（前年同期比24.1%減）と連結営業黒字を確保しました。しかし、営業利益の減少額が有利子負債の圧縮に伴う支払利息削減効果を上回ったため、経常損失71百万円（前年同期は経常損失49百万円）となりました。これに法人税、住民税及び事業税等を加減した結果、四半期純損失85百万円（前年同期は四半期純損失71百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(繊維・アパレル事業)

衣料部門につきましては、メンズ衣料は主として低採算取引の縮小およびメンズスーツ秋冬物の期末月での販売不振を背景とした返品増加などにより、売上高は前年同期を下回りました。レディース衣料は新規取引先の開拓を進めたものの、主として大口案件の売上が前期に前倒しになった影響などにより、売上高は前年同期を下回りました。

ユニフォーム部門につきましては、震災の影響により春先に遅れていた官庁の入札・発注のずれ込み分を獲得できたことにより、売上高は前年同期を上回りました。

寝装品部門につきましては、アイスジェルなどのエコ関連商品や羽毛布団が好調であったものの、震災による買い控えの影響から高価格帯の羊毛布団の販売が回復せず、売上高は前年同期を下回りました。

この結果、第2四半期で回復の兆しが見え始めたものの、繊維・アパレル事業の売上高は25億51百万円（前年同期比15.1%減）、営業損失99百万円（前年同期は営業損失65百万円）となりました。

(不動産事業)

不動産事業につきましては、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」におきまして、前期の家電エコポイント制度や猛暑によるエアコン需要の反動減があったものの、全体としては催事イベントなどの来店客誘致策が奏功したことなどにより、震災の影響から早期に脱し好調を維持しました。

しかしながら、売上高は節電実施に伴い共益収入が減少し、一方、減価償却費の減少などにより販売管理費が減少しました。

この結果、不動産事業の売上高は11億40百万円（前年同期比2.0%減）と減少したものの、営業利益は4億5百万円（前年同期比3.1%増）と前年同期を上回りました。

- (注) 1. 上記のセグメントの業績に記載している営業利益は、セグメント間の内部取引を含んだ金額を記載しております。
2. 当社の消費税等に係る会計処理は、税抜方式によっているため、記載した金額には消費税等は含まれておりません。
3. 記載している見通し等将来についての事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであり、予測しえない経済環境の変化等様々な要因があるため、その結果について当社グループが保証するものではありません。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債、純資産等の状況に関する分析)

① 資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は226億9百万円となり、前期末に比べ18百万円増加（前期末比0.1%増）しました。これは主に、現金及び預金の減少1億85百万円、受取手形及び売掛金の増加1億61百万円、たな卸資産の増加2億25百万円、建物及び構築物の減少2億30百万円によるものであります。

② 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は184億47百万円となり、前期末に比べ70百万円増加（前期末比0.4%増）しました。これは主に、短期借入金の増加1億1百万円、長期借入金の増加1億27百万円、長期預り保証金の減少70百万円によるものであります。

③ 純資産

当第2四半期連結会計期間末における少数株主持分を含めた純資産の残高は41億61百万円となり、前期末に比べ51百万円減少（前期末比1.2%減）しました。これは主に、四半期純損失85百万円、その他有価証券評価差額金の増加25百万円によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動によるキャッシュ・フローで3億21百万円のマイナス（前年同期は1億56百万円のプラス）、投資活動によるキャッシュ・フローで47百万円のマイナス（前年同期は49百万円のマイナス）、財務活動によるキャッシュ・フローで1億82百万円のプラス（前年同期比240.7%増）となりました。

これらの各活動に加え、為替相場の変動による資金に係る換算差額1百万円のプラスを反映した結果、資金の残高は6億8百万円（前年同期比36.1%減）となり、前期末に比べ1億85百万円減少しました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、3億21百万円のマイナス（前年同期は1億56百万円のプラス）となりました。これは主に、減価償却費2億78百万円、売上債権の増加1億63百万円、たな卸資産の増加2億24百万円、利息の支払額1億73百万円によるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、47百万円のマイナス（前年同期は49百万円のマイナス）となりました。これは主に、出資金の払込による支出36百万円によるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億82百万円のプラス（前年同期比240.7%増）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額9億20百万円、長期借入れによる収入9億68百万円、長期借入金の返済による支出16億60百万円、リース債務の返済による支出40百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成23年5月12日発表の予想数値に変更はありません。なお、業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結会計累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、前々期（第190期）において、紳士服販売子会社の不振が損益面に強く影響を与えたことなどにより、連続して営業損失および当期純損失を計上するとともに、「サントムーン柿田川」の第2期開発および第3期開発資金や紳士服販売子会社の赤字運転資金などの負担から、有利子負債額が高水準となっております。当該状況の改善は進んでおりますものの、その解消には至っておらず、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、「スリム化を進め、利益率の高い企業体質へ転換する」ことを企図し、前期から「中期経営計画2010～KAIKAKU～」をスタートさせ、「事業構造の改革」と「コスト構造の改革」を柱とする諸施策への取り組みを進めております。この結果、前期は初年度の目標として掲げた「連結営業損益の黒字化」と「有利子負債の圧縮」について達成するとともに、財務面・損益面の改善を進めました。

当期についても、引き続き中期経営計画に基づき、従来の低採算のOEM事業の規模を縮小し、より高採算の「提案型OEM事業」へのシフトを進めるなど事業構造の見直しを行い、本業である繊維・アパレル事業の営業損益改善を図りますとともに、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」に経営資源を投入し、不動産事業の営業損益の維持・向上を図っております。加えて、協力工場のアジアシフトによる売上原価の低減や販売管理費の削減を進めております。

当第2四半期連結累計期間における経営成績につきましては、上記「1. (1) 連結経営成績に関する定性的情報」に記載のとおり前年同期を下回るとともに、低採算取引先の縮小に伴う営業利益減少や秋冬物の売上債権に係る貸倒引当金繰入額の増加などの影響により当期計画を下回りました。一方、有利子負債額は106億95百万円（前期末は105億26百万円）と前期末比若干増加したものの、前年同期末110億51百万円に比べると減少しており「有利子負債の圧縮」は計画通りに進捗しております。

当社グループといたしましては、当第2四半期におきましても提案型OEM事業における新規取引先開拓を進めるとともに、商業施設事業で継続して増益を達成するなど中期経営計画に基づく諸施策を確実に実施しております。今後も「スリム化を進め、利益率の高い企業体質へ転換する」との基本方針を推し進め、平成23年度通期では損益面・財務面ともに計画通り実現し、中期経営計画で当年度の目標として掲げた「繊維事業部門の連結営業損益黒字化」を達成するとともに、引き続き余剰営業資金により「有利子負債の圧縮」を図る計画としており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,383,266	1,198,256
受取手形及び売掛金	1,095,127	1,257,021
たな卸資産	659,544	885,302
その他	292,946	334,796
貸倒引当金	△25,084	△36,564
流動資産合計	3,405,799	3,638,811
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,540,546	8,310,166
土地	9,345,730	9,345,730
その他(純額)	552,689	518,470
有形固定資産合計	18,438,966	18,174,367
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	265,544	287,174
破産更生債権等	127,834	132,194
その他	405,784	434,972
貸倒引当金	△130,342	△134,493
投資その他の資産合計	668,822	719,848
固定資産合計	19,184,248	18,970,234
資産合計	22,590,048	22,609,046

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	959,192	961,595
短期借入金	2,870,315	2,971,641
未払法人税等	15,618	15,935
返品調整引当金	115,695	130,645
賞与引当金	31,089	30,481
その他	887,786	809,337
流動負債合計	4,879,696	4,919,636
固定負債		
長期借入金	6,490,509	6,618,044
長期預り保証金	3,470,096	3,399,688
繰延税金負債	7,773	7,420
再評価に係る繰延税金負債	2,941,904	2,941,904
退職給付引当金	124,421	142,252
資産除去債務	62,243	62,619
その他	400,579	356,392
固定負債合計	13,497,527	13,528,321
負債合計	18,377,224	18,447,957
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,500,000	1,500,000
資本剰余金	503,375	503,375
利益剰余金	△2,369,239	△2,454,865
自己株式	△6,809	△6,855
株主資本合計	△372,672	△458,345
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△47,868	△22,838
繰延ヘッジ損益	70	△483
土地再評価差額金	4,264,422	4,264,422
為替換算調整勘定	△48,100	△42,967
その他の包括利益累計額合計	4,168,523	4,198,133
少数株主持分	416,973	421,300
純資産合計	4,212,823	4,161,088
負債純資産合計	22,590,048	22,609,046

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	4,169,403	3,691,721
売上原価	3,070,937	2,691,363
売上総利益	1,098,466	1,000,357
販売費及び一般管理費	957,746	893,595
営業利益	140,719	106,762
営業外収益		
受取利息	5,044	6,046
受取配当金	2,404	2,388
その他	5,963	3,136
営業外収益合計	13,412	11,571
営業外費用		
支払利息	184,778	168,723
その他	19,206	20,704
営業外費用合計	203,985	189,428
経常損失(△)	△49,852	△71,094
特別利益		
貸倒引当金戻入額	31,388	—
関係会社株式売却益	14,801	—
その他	227	—
特別利益合計	46,416	—
特別損失		
投資有価証券評価損	—	4,008
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	38,751	—
特別損失合計	38,751	4,008
税金等調整前四半期純損失(△)	△42,187	△75,103
法人税、住民税及び事業税	17,104	12,440
法人税等調整額	9,776	△479
法人税等合計	26,881	11,960
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△69,068	△87,063
少数株主利益又は少数株主損失(△)	2,536	△1,437
四半期純損失(△)	△71,604	△85,626

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△69,068	△87,063
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△20,037	25,030
繰延ヘッジ損益	△1,241	△553
為替換算調整勘定	△29,506	10,898
その他の包括利益合計	△50,785	35,374
四半期包括利益	△119,853	△51,689
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△107,977	△56,016
少数株主に係る四半期包括利益	△11,876	4,327

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△42,187	△75,103
減価償却費	291,044	278,565
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△44,477	15,631
返品調整引当金の増減額(△は減少)	17,015	14,950
賞与引当金の増減額(△は減少)	△440	△607
退職給付引当金の増減額(△は減少)	19,359	17,831
受取利息及び受取配当金	△7,449	△8,434
支払利息	184,778	168,723
投資有価証券評価損益(△は益)	—	4,008
関係会社株式売却損益(△は益)	△14,801	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	38,751	—
売上債権の増減額(△は増加)	478,857	△163,119
たな卸資産の増減額(△は増加)	24,639	△224,991
仕入債務の増減額(△は減少)	△678,270	1,650
預り保証金の増減額(△は減少)	△83,176	△80,924
その他	167,607	△91,762
小計	351,250	△143,584
利息及び配当金の受取額	7,412	8,424
利息の支払額	△190,010	△173,989
法人税等の支払額	△12,651	△12,268
営業活動によるキャッシュ・フロー	156,000	△321,418
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	10,000	—
有形及び無形固定資産の取得による支出	△13,353	△6,955
資産除去債務の履行による支出	—	△3,488
投資有価証券の取得による支出	△10,498	△598
投資有価証券の売却による収入	565	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△1,671	—
出資金の払込による支出	△34,254	△36,759
その他	148	40
投資活動によるキャッシュ・フロー	△49,064	△47,762
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	824,000	920,500
長期借入れによる収入	19,289	968,643
長期借入金の返済による支出	△746,880	△1,660,282
リース債務の返済による支出	△28,575	△40,647
自己株式の純増減額(△は増加)	△104	△45
少数株主への配当金の支払額	△14,184	△5,721
財務活動によるキャッシュ・フロー	53,544	182,445
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6,064	1,724
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	154,416	△185,010
現金及び現金同等物の期首残高	796,921	793,160
現金及び現金同等物の四半期末残高	951,337	608,150

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報等
(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	繊維・アパレル 事業	不動産事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,005,695	1,163,707	4,169,403	—	4,169,403
セグメント間の内部売上高又は振替高	139	961	1,101	△1,101	—
計	3,005,835	1,164,669	4,170,504	△1,101	4,169,403
セグメント利益又は損失(△)	△65,395	393,402	328,007	△187,287	140,719

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△187,287千円にはセグメント間取引消去△148千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△187,139千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	繊維・アパレル 事業	不動産事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,551,471	1,140,249	3,691,721	—	3,691,721
セグメント間の内部売上高又は振替高	146	961	1,107	△1,107	—
計	2,551,617	1,141,211	3,692,829	△1,107	3,691,721
セグメント利益又は損失(△)	△99,951	405,736	305,784	△199,022	106,762

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△199,022千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。